

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、若木町在住牟田の一般質問を開始いたします。（発言する者あり）はい、つくりました。ちょっときょう差し歯がとれてですね、歯がスースーしてちょっと言葉がうまく出ないかもしれませんが、よろしく願います。髪の毛が抜けているのは関係ありません。

では、きょう傍聴席も若木町区長さん方いっぱいいらっしゃっています。教養あふれる若木町、1番の順番をちょっと入れかえて、教育問題からやっていきたいと思えます。

最初は、図書館・歴史資料館、この問題から入っていきたくと思えますけども、これはもう本当全国的なニュースにもなっていますし、ある大学では学生に、この図書館の民間委託をどう思うかというふうな問題まで出ているらしいと、それぐらい全国的なニュースになっているらしいです。

初めて使います。これどこ向ければいいんですか、こっちな。

（全般モニター使用）ゆめタウン、何で図書館・歴史資料館問題でゆめタウンなのか。これでちょっとやってみたく思えますけども、ゆっくりちょっと話すと長くなるので、簡潔に長く話したいと思えます。

昨日7番議員の質問の中で、武雄の図書館は当時、つくるときに当時何を指していたのかと、こういう質問が出ました。平成の初め、武雄市立図書館は副島病院さん、旧副島病院さんの跡地に、そこをお借りしてありましたけども、そのとき私議会を代表して図書館協議会というところに入っておりました。一番当初から入っていた議員の一人であります。——の一人であります。それから、武雄市立図書館等建設懇話会というのができました。それも代表で私行かせていただいております。

そこで、この新図書館建設に向けて何度も何度も協議が重ねられました。当時は皆さん御案内のとおり、石井市長さんが図書館をつくりたいということで相当力を入れていらっしゃいました。ここでゆめタウンが出てくるんですね。

石井市長は、ちょっと県名は忘れちゃったけども、ある自治体がゆめタウンの中に図書館をつくっていると、ゆめタウンの中にですね。それを聞いて、武雄の図書館も本を見て、買い物して、御飯食べて、また本を見る。そういうふうな半日、もしくは一日ゆっくり楽しめる図書館にしたいということをおっしゃっておりました。そして平成9年、図書館建設委員会が発足しました。その中で、コンサルは——あつ、これ図書館ですね、すみません、ちょっと順番、これ今の図書館です。菅原峻さん、菅原峻さんという方が図書館のコンサルということでやってこられました。この菅原さんは、全国図書館協会に35年勤められて、それからいろんな市立図書館のコンサルで見えられた方です。この方は、石井市長の意を受けて、役所臭い図書館を危惧し、住民とともにあることを心情とされていると、そういう話をしましたし、その中でもそういう話をその懇話会でもされておりました。我々がその菅原さんと話

した中に、半日でもゆっくりできたらいいですねというふうな話をしておりました。そういう図書館にしたいですねと。これは図書館の中ですね。で、設計ももちろん携わられておりました。これは喫茶ルームというか、図書館の中にあるやつです。これも菅原さんと話して、私もお願いしましたが、こういうスペースが絶対欲しいですよと。その中で本を読んでちょっと飲まれるとか、それも菅原さんは聞き入れていただいて、それはそのとおりだと、私もそうしたいということで、この喫茶スペースも生まれました。菅原さんほとにかく役所臭い図書館じゃなくて、本当に住民が楽しめる図書館を目指したいということでやってこられましたけども、それが約10年後の今、やっと実現するように私は思います。

〔市長「そうです」〕

これが7番議員さんが質問されていた、当初目指すものとして私はずっと入ってきて、これね、あんたが勝手に言いよるとやろうもんでいちゃもんつけらるっぎいかんけんが、その当時のメンバーの人にちゃんと確認してきました。間違いないです。

そして、当時、私もちょっと若かったですね、十何年前で。今も若かですけども、いろいろ注文つけておりました。閉館時間6時と。6時ですかと、もう少し延ばしてくださいということも発言しました。何でねと、それは武雄町の人にはよかでしょうと、仕事終わって真っすぐ行かるんもんと。例えば、自分が住んだ若木町ば仕事終わって来っぎんともう6時過ぎとやばいと。周辺部分のことを考えてちゃんと6時とされているんですか、できれば7時にしてください。町の近くの方はいいですよ、でも、周辺部の人たちは6時には間に合わないですね、平日。じゃあ土日来っぎよかたいと言われた。それは周辺部の者は土日限定図書館ですかと、そういう話もしました。ですから今回、9時、9時というのは本当に一番当初私がお願いしてきた部分と一緒にあります。

あと、雑誌をもっと置きましょうと、こういう話も発言をしております。やっぱり市民が楽しめるというのはいろんな方が見に来てほしいということがあったんですね。やっぱり雑誌というのもゆっくり過ごせる理由の1つで、そういうのもお願いしますと言っておりました。

菅原さんは、よく私の、まだ若かったんですけども、意見をよく聞いて話し合いました。実現できなかったことも多々あります。6時というのはやっぱりもう6時で、押し切られたという言い方はおかしいですけども、やっぱり6時になっちゃったんですね。やっぱり何時間延ばすとそれだけ人件費もかかるし、需要も当時どうだろうということで言われました。当初目指したものがそうであります。

長くなりましたけども、最初の質問、当時、さっき言いました若かった私が主張していた、その建設委員会の中で主張していたのは、歴史資料館、歴史資料館は、本当に歴史資料は大切に保管を前提というのは言うておりましたけども、何て歴史資料館は要らんちゃなかですかと、歴史資料室でいいんじゃないですかという主張をしていました。これも当時の委員さ

んに確認しましたら、あんたごつとい言いよったもんねと、歴史資料室でいいんじゃないか
といつも主張していたねと。保管は大切だけど歴史資料室でいいというふうに言っていたね
ということはこの前も確認してきましたけども、——あっ、これ次に変わるかな。これ蘭学
館も要らんぢやなかですかと、これだけお金かくつぎ蔵書ばもっとふやしてください、展示
室でいいんじゃないですかと。

ところが、当時また怒られたんですね。武雄の資料はすごいのがいっぱいありますと、牟
田君、こがんよか資料のあったらねと、もう全国的に珍しい資料と、すばらしい資料だと、
バスもどんどん来っばいと。

〔市長「来んばい」〕

まだ質問のあれですから、バスもどんどん来っばいと、観光にも役立つよと、そのくらい
すばらしい資料だよと、蘭学館もつくらんばと、そうですかと。で、私やっばり当時まだ若
かったけん、ああ、そがん観光にプラスになって観光客の来っごたっぎ、それはやっばりつ
くったほうがよかかなということで賛成はいたしました。で、やっばりですね、私自身図書
館はヘビーユーザーじゃないですけどもたまに行きます。そういうときまだバスとか見たこ
とないんですね。

実際——最初の質問、オープンしてから、そういうバスツアーとかバスで見えられる方と
いうのはどれぐらいこの図書館側は把握しているのか、これを最初の質問としたいと思いま
す。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

バスにつきまして、統計をとっているわけではございませんけれども、最近ではほとんど
来ていないという状況にあるというふうに認識をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

部長さん、見えんですね、ここ。部長さん、何か微妙な言い回しですね、最近では来てい
ないとおっしゃいましたね、昔来ていたんですか、やっばり。きちっとこれ、さっき言いま
したオープンしてからということで、最近では来ていませんという言葉が使われると、昔はが
んが来ていたみたい聞こえます。そこら辺をちょっと確認したいと思います。再度答弁
をお願いします。

〔市長「来ていませんよ」〕

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

失礼いたしました。開館当初からほとんど来ていないというのが実情でございます。

(「本当ですか」と呼ぶ者あり)

〔市長「来ていません」〕

○議長(杉原豊喜君)

21番牟田議員

○21番(牟田勝浩君)〔登壇〕

先ほど壇上で言いました。当時から目指しているものがやっとここで10年の時を経て実現できることを私は私自身喜んでいきます。

ただ、その歴史資料館、さっき言いました私は歴史資料室でいいんじゃないかということで主張していましたし、きのう大分、この図書館の中の個人情報とかなんとかというのはもう大分上田議員さんやられていましたので、この歴史資料館のほうにちょっと絞ってやりたいんですけども、やっぱり歴史は大切だと思うんですよ。人間、その家の歴史、地域の歴史、町の歴史、市の歴史大変にしなきゃいけないです。それはもう重々承知しています。だからこの歴史資料のやつを、市長は昨日3つの選択肢があるというふうにおっしゃいました。確かにいろんな考えがあっていいと思います。

だから、私ちょっと1つだけこういうやり方もあるんじゃないかということで提案したいんですけども、田代酒造跡、わかりますかね、田代酒造跡——ああ、見えんですね。田代酒造跡というのは、これは市が10年ぐらい前に買い上げました。8,000万円ぐらいだったですかね、これを買いました。買い上げるときに、我々に言われた理由が、これはね、歴史的価値があるんだよと。それを推進しているメンバーの方々は、これを推進していた、これを買おうというメンバーの方々は、その蘭学館をつくろうというメンバーの方とほとんど一緒だったんですね、当時推進されている方。これを買おうという方は同じメンバー、蘭学館をつくりたいという方々とこれを買おうという、大体重なっていたと思います。で、これは10年たってももうそのままなんですね。

当時この議案が出たときに、私は何で買わんげいかんとですかと、田代酒造跡、大関酒造というところが所有していました。これ何かわかりますか。牛の(発言する者あり)あつ、馬かな、牛か馬のつなぐ、これはね、すごい歴史的価値があるんだよと、谷口議員さん教えてくれましたね。

〔24番「はい、そうです」〕

はい、もうこのくらいとですね、うちの家にもついておるし、うちの前の百武酒造さんにももっとよかとのついとるですよ。そいぎ何でこれで買うとですかと、答えは1つ、長崎街道沿いだから、歴史的価値があるからということだった。やっぱり長崎街道沿いというのはそれだけ価値があるんですよ。そういうことでこれを買いました。田代酒造結構傷んでい

るんですね、結構傷んでいますけども、やっぱり歴史と文化を欲しいという方々が、歴史資料館と同じ方々がこれを買ってほしいということが来ていましたので、ここに歴史資料館として移せないものか。ここをですね。

というのは、さっき部長答弁で、バスは来ていないと。ただ、ちょっと聞いたところ、旅館からぼつりぼつりと行く方がいらっしやると。旅館からここ歩いてすぐなんですね、長崎街道を歩いてすぐなんですね。で、これ、ちょっと改装にはお金かかるかもしれないですけども、場所を移して、あの浄化槽があるところ、今の図書館の浄化槽があるところを移してするよりもこっちのほうがひよっとしたら安上がりかもしれません。

ちょっとこれも余談になりますけども、うちの家の蔵といいますか、解いたんですね、この前、解体したんですよ、お酒が出てきました。解いたんですけども、それを移築して、欲しいという方がいらっしやったので移築して、大和の工業団地に移しているんですけど、今もうそういうリフォーム技術すごいです。だから、新しく建てるよりもひよっとするとこれを改築——リフォーム技術すごいです、本当に。うちのちょっとぼろい、ぼろぼろのやつを持って行ってきちっとされています。そういう技術があるから、ここに持って行って歴史資料館として歴史資料を長崎街道沿いですると場所もぴったりじゃないかと。

そして、さらにもう1つ言えば、これも全然活用なかったんですけども、研究会だけは発足していたんですね。で、焼き物資料館にしたほうがいいとか焼き物体験場にしたほうがいいと、意見だけは。その委員会結構、費用弁償とかも出て、したけど結局まとまらなかった。これ後ろのほう写真撮ってこなかったんですけど、後ろのほうずっと広いんですね、駐車場もあって。だから、これ造り酒屋さんだから奥も広いです。だから、そういうふうにもできれば、例えば、焼き物もできるかもしれない。こういうふうなところも選択肢の一つとして入らないものか、市長にお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

正直に言って、この買い物は僕は無駄だったと思いますよ。本当にね、8,000万円かけているんでしょう、これ。財政が厳しい中で。だからうちは総借金が、私が市長就任時のときに400億円も積み上がるんですよ、財政規模は200億円しかないのに。私が市長だったら絶対に買いません、これ。市民怒りますよ、これ。で、しかもこれが使えるんだったらいいですよ、まあ特定の方向を指して言っているわけじゃないですよ、使えるんだったらいいけれども、これ中入ったときに、もうシロアリだらけですよ。私が6年、市長に就任させていただいて最初に入ったときですら。柱は欠け、しかもすごい湿気が高いんですね、湿気が高いので、よくこんなもの買ったなということは思いますよね、本当に。怒っていますよ。

ただ、買ってしまった以上はもう仕方がないということで、何とかこれを再活用したいと

いう気持ちはあります。あります。その中で、ただ、これ改装しても無理なんですね、牟田議員さんの質問の前に、我々もう一回中に入りました。中に入って、これを改築で何とかできるかと、それは無理です。もうかえってこれを改築しちゃうとコストがかかりますし、かつ危険性がある、やっぱり。ですので、1つの案として外壁だけは残そうと、長崎街道に面していますので、外壁だけはきちんと残した上で、中を例えば、展示室にしたりとか、焼き物であったりとか、例えば、美術品であったりとか、その活用はできる。で、駐車場はやっぱり結構広いんですね、あそこの新町のほうに行くほうのあの奥のところですね。そういったところから一部民間のところありますけど、活用ができないかなということは思っていますので、これはぜひ選択肢の一つに加えたいと思います。ただこれは、どういうふう to 活用をするかというのは、もちろんあれですね、美術協会とか文化連盟とか、あるいは議会の御意向もありますので、選択肢の中でそれはしっかり、特に議会の中で御議論をしていただくことになろうかと思っておりますので、私としては、武雄市政を預かる者としては、これは選択肢の一つとして考えてまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

久しぶりの一般質問でちょっと固かったんですけど、少しずつ解けてきました。

こういうのがあるので、選択肢の一つということでぜひ考えていただきたいと思います。

先ほど壇上で言いました。一番最初から目指しているものは何かというところを考えて、これから図書館のほうもやっていただきたいですし、そして、何より忘れちゃいけないのは子どものことですね、子どものこと。

子どものことなんですけども、例えば、今まで図書館というのは、パブリックインフォメーション、そういう図書館機能ですね。で、今度変わるということで、先ほど壇上で、一番最初に目指していたのはエンターテインメント性なんですね。さっき言いました、菅原さんも半日滞在できるような形でということでもいつも相談されていまして、もしくは一日滞在できるような、お茶も飲んでという言葉も使われました。隣で買い物もしてという言葉も使われました。

教育長のほうに——教育長じゃなくてもいいんですけども、この問題の次の質問ですけども、きのうちょっと上田議員さんも触れられましたけども、司書さんの問題です。

司書さんに関しては、教育に関しては教育委員会も頑張っているし、より高みの教育を目指すということで、司書さんを、市長、先日答弁で学校司書のほうにということでは言われました。本当にこれは、これはもういいこととか、ぜひやっていただきたいと思っております。

図書館に集中していた優秀な司書さんを各地域の学校に配置することによって、地域の子

どもたちの人材育成になるわけですね。これはもう1つの投資だと思います。今までの立ち位置じゃなくて教育委員会直轄のきちんとした司書さんを学校に置くことによって、市が手厚く子どもの読書推進に当てられると。

この新しい図書館ができれば、その新しい図書館と連携して地域の図書館もさらに伸ばしていくためには、やっぱりそこに優秀な司書さんを配置するというのが、そのパイプ役としてとても必要なことだと思います。将来の武雄市を担う子どもを育成していくという観点から、やっぱりそういうふうなきちんとした配置をすれば、その子どもたちのことを心配しなくて——ああ、ごめんなさい、心配しなくていいという言い方は——より高みを目指せるわけですね、この武雄市が。

ぜひですね、もちろんきのう答弁でありました。選択制だと、TSUTAYAに行きたい方はTSUTAYA、ぜひ私はもう地域の図書館、地域の図書館に配置することが、それはコストもちょっとかかるかもしれませんが、地域の新図書館と地域のパイプ役、そして地域の子どもの将来をつくる役割の一人としてやっていただきたいと思いますが、その辺のところはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

現在、武雄市の図書館で働いていただいている司書の皆さん、この方々については、基本的には来年4月以降、指定管理者制度に移行した後、同じ図書館で働いていただけるのであれば、そこで働いていただけるということが一番いいのではないかと考えております。

それから、もし御本人の希望等も伺いまして、学校司書という選択肢も用意をしていきたいというふうに考えております。（「まだ決めていないんじゃないの」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと答弁を修正します。私とすれば、ここで余ったから学校図書というのは反対です。どっちも大事。今度図書館の機能として、今までの司書さんというのが、もう雑用係なんですよ。

ですので、きのう上田雄一議員さんにも申し上げましたけれども、要するにそういう雑務から解放をして、例えば、私たちのユーザーの、利用者の相談であったりとか、こういう本があります。こういう資料がありますということに当てたい。しかし、これは本人の御希望があります。ですので、それは重く受けとめて、もし学校司書ですよ、いわゆる学校司書であればということでお出ししたいと思っておりますし、もともとこれだけでなく、私自身は学校

司書というのは拡充しようと思っていたんですよ。

今ね、ちょっと制度がおかしくて、あれね、給食——ちょっと待ってくださいね。（発言する者あり）そうなんです、給食図書事務と言うんです。何で給食と図書が一緒なんです。これは文科省がおかしいんですよ、おかしい、あそこはもう本当に。ですので、給食は給食、図書は図書、でしょう。

〔21番「うん」〕

ですので、そういう本と子どもたちの橋渡しは若い司書さんが一番いいんですよ、学校出たての。それを一番恩恵をこうむったのはこの私なんです。私小学校の6年生のときに、僕は本嫌いでした。そのときに、まあ司書さんだったか、何か若い大学出たての補助教員と言うんですか、その当時で。その人が、いや、この本はおもしろいよと言って、読んでみたらと。それが粗筋ですかと言ったら、粗筋も最後のところだけは置いて、どう考えても本を読みたくるように持って行ってくんさったわけですね。それから私は無類の本好きになりました。

ですので、勝手に本好きになる人はいいですよ、もう牟田さんのごとね。しかし、大部分の人たちは本を読むというのは、やっぱりハードルの高かわけですよ。そのぜひ橋渡しになってほしいという意味でいうと、私はどっちも大事だと思っていますので、そういう意味で教育委員会にきちんと予算をつけたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当にですね、給食と図書を一緒にしていると市長がさっきおっしゃったのはおかしいですよ。やっぱり図書専門で各学校に配置していただくと、こんなに子どもたちとか地域とか、そして学校の教育の向上に勝るものはないというのは言い過ぎかもしれませんが、すばらしいことだと思います。

地域の例えば、読み聞かせグループっていらっしゃいます。各学校にもいらっしゃいます。その人たちと協力して読み聞かせもできる。いろんなことが地域でできるんですよ。

ぜひそういうふうな、先ほど部長はまずもってTSUTAYAさんを優先してという言葉を使われましたけど、市長が訂正していただきまして、これは本当に感謝してそういうふうにやっていただくよう協議していただきたいと思います。

以上でこの司書さんの問題に関しては終わりました、次の問題、これはコンビニエンスの成人誌、ちょっと言い方はわからんばってん、成人誌、18禁と言うんですか、成人誌、コンビニに入ると、コンビニエンス、武雄市内もコンビニエンスいっぱいあります。その中に入ると、成人誌いっぱいありますよね、成人誌。（発言する者あり）俗名が言えないんですね、だから、はい。これはですね（「エロ本よ」と呼ぶ者あり）ありがとうございます。よく地

域に自動販売機の成人誌を売るところがありますね。これね、よくあるんですけど反対運動がよくあっているんですよ。例えば、うちの地区もありましたけど、反対運動とか署名運動とかいろいろあるところがあるんですね。でもそういうのは物すごく動くけど、そのコンビニエンスの成人誌コーナーというのは全くそのままなんです、だれも言わない。これは何でかという、例えば、そういう自販機に行く人は、それを目的に買いに行くんですね。でも、コンビニエンスというのは、普通の本棚の隣に成人誌があるんですね、もちろんここから成人誌ってこれぐらいの帯がついているんですけども、もう通ったら全部目に入るわけですよ、それはだれも規制とか文句が出ない。何でかなと昔から不思議だったんですね。これは例えば、おにぎり買いに行っても、お菓子買いに行った子どもでも全部目に入ります。その前を通ると。例えば、アイスクリームのコーナーがここにあったらここが成人誌と。だから、それはちょっと、何で今までそういうのが手つけられなかったのかなって思っています。できればこういうのをですね——あつ、コンビニさんにちょっと聞いてきました。売り上げのくらいあるんですか、成人誌のと。書籍の大体1%あるかないかぐらいです。——僕が聞いたところだけです、書籍の1%あるかないかと。そしたら、そのコンビニ全体の売り上げのどれぐらいですかね、0.、書籍だけの1%ぐらいですから、全体の売り上げの0.何%ぐらい、0.0かわかりませんが、何%かわかりませんが、やっぱり、それでもしよければ、例えば、市内のコンビニさんと協議して、そういうふうなコンビニに成人誌を置かない条例とか、そういうのを日本初でつくればどうなのと。コンビニさんももちろん協力してもらってですよ、これは相談してから、相手がある話で。で、そういう成人誌がじゃあコンビニからなくなればどうなるかという、もうできれば地元の本屋さんから買ってください。本屋さんは本が、あるいは成人誌ありますけども、ちょっと分けてあります。本屋さんはその本が商売ですから、コンビニさんはその一部です。

ですから、そういうので、できればそういうふうな子どもの教育の観点から、繰り返しになりますけども、そのコンビニさんと話し合っこのう条例はどうだろうかとこのことを話して、さっき言いました書籍の1%、全売り上げの、全体のどれぐらいになるかわかりませんが、協力してもらえないかと。で、青少年の育成の観点、そして、そういうふうな武雄市は青少年の育成にこれだけ頑張っているんだよというふうな条例をつくれぬものか。これをお伺いしたいと思いますし、そういうのは本屋さんで、地元の本屋さんで買ってくださいみたいな形でしていただければいいんじゃないかと思っておりますけども、これはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ一見いいのかなと思うんですけども、例えば、先ほど山口昌宏議員から行政は公平

でなくてはいけないということ、これは全く僕も同感なんですね。そういったときに、例えば、コンビニにある有害図書がだめで、一般書店にある有害図書がオッケーというのは、これ条例規範として多分成り立たないんですね。もしやるとするならば、武雄市が条例をつくるとするならば、武雄市に置いてある有害図書というのを駆逐するためにその条例というのはあってしかるべきだと、僕も思います。そこは思います。

だから、本屋に、まあ特定の名前は出しませんが、地方の本屋ってそれが多いいんですよ。あそこにそが本本のあつけんがちょっと行きづらかばいと、例えば、そういう本の横に旅雑誌を置いたりしているわけですよ。で、私もそこば通るときは、ちょっとやっぱり私もこっちをこう向けたくくなりますもんね、立場上。ですので、（「立場上」と呼ぶ者あり）うん、まあ立場はいろいろあります、僕も。ですので、そういうことからすると、それをコンビニとそういう本屋さんで分けるのは、ちょっと僕はいささかどうかなと思っていますし、じゃあそれをもってコンビニのところだけ禁止して、地元の本屋の有害図書のほうにじゃあ人の買いに行くかと、多分それはなかなと思うんですよ、この経済効果から言うてもですね。で、それば経済効果として誘発するようなスキームは僕はいかなものかなと。お気持ちはわかりますけれども、そういった意味からすると、これぜひ議会でちょっとよく相談をしてほしいと思うんですよ、議会で。これね、どっちかという行政の話じゃなくて、これは政治のような話をするんですね。行政というのは公正・中立というのがやっぱり基本にあります。ですが、政治の場合は変えるということにやっぱり意味があると思うんですよ、変えるって。ですので、そういう意味で言うと、それはぜひ議会の中で御議論をしていただいて、牟田さん出してください、そういう条例案を、議会ということで、もしそのまともればということであれば。

だから、その観点で言うと、僕はちょっとどうかなとは思いますが、ただ問題提起としては、それはなるほどそうだとすることは思いますので、どんどんそういった提言はこれからもお聞かせ願えればありがたいというように思っております。

最後にしますけれども、ぜひ地元の本屋さんをお願いをしたいのは、やっぱりあの有害図書があるから行きづらいという声は結構聞くんですよ、僕、聞きます。ですので、完全に区分けするというのは、やっぱり小さければ小さかほど無理ですもんね。ですので、ここはぜひ勇気を奮っていただいて、そういう本はもう撤去をして、やっぱりお子さんとか子どもさんとか主婦の皆さんとかが行きやすいつて、女性の皆さんが行きやすいつて、うちの本屋にはこういう本はありませんということをしていただいたほうが、中長期的に見れば私は売上げは伸びると思いますし、そこで図書館と、今度新しい図書館と色々な意味での連携がもっとできれば、それは今の開業医さんだつてそうですよ、今新武雄病院と連携しているところというのは患者様はふえていますもんね。そういう意味での前向きな連携にもつながっていくんじゃないかなと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

コンビニというのはやっぱり、小さい子からとか、その別の要件でいっぱい入ってくるので、ぜひそういうところもかんがみて我々も考えていきたいと思えますし、例えば、ビデオ屋さん、ビデオ屋さんはそういう成人コーナーというのは垂れ幕かかっているところから入っていくらしいです。はい、いろんなところ、武雄にもビデオ屋さんありますし、貸しレコード屋ありますが、そこはもうきちっと区分けしてのれんがかけてあるらしいです。そういうふうにしてきちっとそういうふうに分けてあれば幸いだと思えますし、これからもさっき言われました、議会でも考えてくださいということですので、私も考えていきたいと思えます。

では、次に教育の最後になりますかね、2学期制。

これは7番議員さんが質問されました。日本はもうずっと元来3学期制で来ていて、これは明治4年の学制の発布、そして明治12年の教育令で、もう全国に広がりました。3学期制で、2学期制というのは、それからつらつらして、ここ10年ぐらいにして、2学期制ですね、2学期制は出てまいりました。

きのう教育長のほうから、2学期制を3学期制に戻すことは考えていないということ言われました。その根拠を再度お教えいただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

2学期制が始まる時には、非常に多くのいろんな議論がなされたことを聞いております。

1つは、私どもが3学期制でなれて当たり前と思っている学校のあり方を考えていく契機になったというのが一番じゃないかというふうに思います。学校はこんなもの、1学期、2学期、3学期こんなものというのがあるわけです。これは当然なければいけないもの、例えば、自然とのつながり、あるいはこの慣習とのつながり等はあったと思えます。しかし、それによって私どもが当たり前で過ごしてしまっている。学校側としてもそれで済ましていると、そういうのがこの時代なり状況なりに合っているかという、そういう見直しではなかったらうかというふうに思います。

それから2つ目は、やはりいろんな学校教育、いわゆる知的な指導のほかにたくさんのごとを学校で教えなければいけなくなっている状況、これは本来家庭ですべきじゃないかとか、地域でやったほうが意味あるんじゃないかというふうなのまで学校に入って、学校での指導が効率的だということをやっている。そういうのがどんどんふえてきたという経緯があるかと思えます。

そういう中で、具体的には授業時間数をきのうも言ったわけですがけれども、授業時数を適切に確保して、していく。あるいは意識を変えてやっていこう、行事も見直してやっていこうというような中で2学期制というのが取り入れられて、そして現在に至っているということかというふうに判断しております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今教育長から答弁がありました。変える見直し、いろんなことを考える見直しになったんじゃないかと。何かちょっとがっかりする、そのくらいのことで3学期制ば2学期制に変えたのかな。（発言する者あり）うん、そうそう、きのう間違えられたので私もちょっと間違えそうになりました。

あとは授業日数の確保、これ消えちゃいましたね。あつ、ごめんなさい。——あつ、これすみません、消えちゃいましたってつくって来ていませんでした。

授業日数の確保なんです。これはもう前から私は言っているんですけども、合併前のどうしても授業日数が足りないから2学期制にして授業日数をとる。これがもう最大のメリットだということで、この議会でも各学校でも言われてきていたんですね。じゃあ、その授業日数はどれぐらい確保できていたのか。

これは前にも言いましたけども、先生の出張時間ですね、出張時間。合併前、3学期制のときは、旧——あつ、すみません、比較するものがなかったもので、旧武雄市の分でちょっと比較しますけども、旧武雄市で3学期制をしていたときには、1年間で武雄市の小・中の出張時間というのは約1,700時間あったんですね、約1,700時間が小・中の先生たちの出張時間としてとられていたと。2学期制になって、4年前、これがですね、1,700時間が出張が2,500時間にふえた。子どもたちの授業確保といいながら、出張は1,700時間から2,500時間にふえた。じゃあさらに今はどうかと。今は、これは平成22年の資料ですけども、今は出張時間3,520時間、3学期制のときの倍出張時間とっているわけですね。

〔市長「それはいかん」〕

何でこういうふうに、子どもたちの授業の日数の確保といいながら、先生の出張時間は3学期制の倍ですよ。そこが何か矛盾していると。

それともう1つは、もうこういう矛盾がどんどん出てきてメリットが少ないと、メリットが少ない。すみません、ちょっと少なく、ちょっと割合ずれますけども、今学校土日休みですよね、土日休み。じゃ、父兄はどうなのか。土日休みのほうが忙しいんですね。忙しか、いろんな行事が入って。それと一緒に、反対に2学期制で間がとれたから出張がどんどん入ってきているんじゃないか。違うと思いますけどそういうふうに勘繰りたくなる。例えば、横浜市、横浜市で全職員、学校職員、そして保護者にアンケートをとったら、9割が3学期

制に戻してくれ、アンケートから結果が出ています。群馬県の太田市、太田市はもう全面的に3学期制に戻す。石垣市、全面的に戻す。高松市、全面的に戻す。インターネットで「3学期制復活」と検索したら、何十万件も出てくるんですね、私がちょっと見ただけでこんなに出てくるんですよ。教育長さんは考えていないとおっしゃいました。しかし、出張時間に関してはそういうふうにして倍もふえている。私はそのメリットが感じられない。3学期制はさっき言いました明治時代からやっぱりそうになっている。それは何でかということ、藩校の時代から、藩校はやっぱり、当時は冷房も暖房もないから季節にあわせてきちっと区切りをつけていた。それが明治時代に移ってきた。季節というのは、今ちょっと季節はおかしいですけども、変わりはないです。やっぱりその風土をきちっとして、そして節々があったほうが竹も強い。年2回の評価よりも3回評価して、夏休み前までにきちっと評価して、じゃあよかったらさらに頑張ろう、悪かったら夏休み頑張ろうと。これ今10月ですよ、10月までそのままつるっといってしまいます。で、今度2学期で成果が2学期の末出てくる。新年度を迎える前にきちっと評価をもらって頑張ろう、もしくはよかった、新年度を迎える。悪かったらそれなりに。で、3学期。

これも2学期制のメリットの一つとして、先生の通知表をつける時間が削られると、それはいいことだということをおっしゃいました。それは確かによかことかもしれません、長期に見れば。やっぱり3学期制がきちっと、絶対評価というのは2学期制がいいらしいんですけども、きちっと評価していくというのはやっぱり3学期制、そして子どもたちの節々の節度、そういうのをかんがみて全部こうやって戻っていつているんですね。——全部じゃないです。戻っていくところがかなり加速していると。

ぜひ武雄でもそういうふうなアンケートをやってほしいんですけども、いかが考えられるでしょうか、御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどの出張日数については、ちょっと武雄市で把握したのとは違うように思うんですが、ただ、土曜日の分が、確かに出張の分が平日金曜日までに入ってきているというのは間違いないかと思います。

ただ、この出張につきましては、2年前に武雄市内校務支援システムをつくっていただきまして、例えば、校長会でも教育委員会関係ではもう1時間で済ますと、資料を先に配付しておいてですね。そういうふうなことをどんどん進めておりまして、出張の回数とはもかくとして、その時間を短くするとか、あるいは合同でやるとか、いろんな手だてをとっているところでございます。

ただ、いずれにしても、出張が多いというのは全国的にも言われることでありまして、今

後さらにまたやっていこうというふうに思っております。

2学期制につきましては、20年度に山内町、21年度から北方町ということで、全市的な取り組みとなったわけでありまして、今3年を経過したわけでございます。

そういう意味で、新しい指導要領そのものが非常に授業実数の増加を打ち出したというのが1つ非常に大きくあるわけで、確かにそれで、2学期制で授業実数については助かっているという面はもう現実でございます。

それを踏まえて、今現在で校長等への確認をしたところでは、3学期制に戻してくれという意見は直接的には入っていないようではありますが、今お尋ねのような、この3学期制でのいわゆるデメリットの部分がどう感じておられるのか。それは今後つぶさにまた調査をしていきたいというふうに思っております。

確かに2学期から3学期制に戻っているところもございまして、全国的には二十二、三%、約5分の1が2学期制をやっているということで、大きな全体的な変化は少ないように思います。ただ、おっしゃったような、戻っているところの理由等についても、私のほうでも調べて検討していきたいというふうには思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は2学期制と、その出張というのはあんまり関係ないと思うんですよ。その中で、2学期制はちょっと教育長からあったように、メリット、デメリットを含めてつぶさに検証するというので、それは教育委員会に委ねたいと思うんですけど、牟田議員の御質問で私もはっと思ったのは、出張のその多さなんですね。

私、親族割と学校の教諭が多いです。で、やっぱり聞くと、もう出張だらけとやっぱり言うですもんね。実際、その子どもたちに接する時間が出張が多過ぎて減ったて、やっぱり私の親戚とか知人はそれを言うんですよ、同級生もそがん言うですもんね。

それでちょっと考えようと思っているのは、一回教育委員会が主体となってアンケートをきちんととろうと、学校の先生たちにどのくらい負担になっていますかと、どれだけ行っていますかということですよ。それで、これだけもうITの発達しとるぎ、黒岩幸生委員長も言いんさっですよ、もうわざわざ佐賀県庁まで行かんでよかて。（発言する者あり）うん、ですよ。まあ絶対行かんばとは行かんばいかんですけれども、そういう意味での移動だけでもやっぱり負担になっですもんね。佐賀県庁まで行ったら、往復場合によってはもう2時間半ぐらいかかるですもんね、混んでおったときとかで含めると、それが非常に負担になっているというのも聞いていますので、それはちょっと我々のほうで、教育委員会と私のほうで検証しようと思います。

その上で、これは加重ばいと言ったら、出張制限令を出しますよ。それよりも、出張して

大人の顔見るよりか子どもの顔を見とったほうが絶対よかです。ですので、そういう方向で強ちに指導してまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今市長から心強いお言葉をいただきました。教育長さんからはちょっと残念だったんですけども、検討したいと、アンケートをとってみたいだけませんか、検討したいと言われましたので、ちょっともう1個突っ込みたいと思いますけども、先ほど私ちょっと遠慮をして3,500時間と言ったんですね。これは1日出張していた時間です。終日以外のちょっとした出張がほかに7,000時間あるんですね。合わせて1万時間ですよ。もちろん補助教員もいらっしやいますから、だからちょっと遠慮して言ったんですね。数字が違いますとおっしゃいましたけども、終日は1年間で1,204時間、終日以外ちょっとした出張4,400時間、終日は掛ける5時間で計算しているんですね、本当は6時間かもしれない、ちょっと遠慮して言ったんですよ。だから数字違うのは当たり前ですよ、こっちのほうがはるかに多いですから。すみません、ちょっと遠慮しました。

ただ、市長がそうやっておっしゃったので、ぜひ学期評価委員会ってありますよね。私、2年前、3年前、小学校の副会長をしていました。で、その後会長をしました。で、去年中学校の副会長をして、今会長をしています。一回も学期制の問題なんて振られたことない、聞かれたことない、教育委員会も聞こうと思わない。ぜひ、さっききちっとした答弁をいただけませんでしたけども、そういうふうなアンケートをとっていただきたいと思います。

その辺の答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあアンケートをとるかたらないかは教育委員会にお任せしますけれども、ちょっと私さっき言い忘れたことがあって、出張もそうなんですけど、文書も多過ぎる、報告文書が、教育委員会は。大分、まあ教育長は御理解があられるので、僕ツイッターで書いたんですよ、「もう文書文書のオンパレード」って書いたら、教育委員会はそれを受けてくれて、大分学校の先生減っています、文書が。ただし、佐賀県の教育委員会に出すのも多いんですよ。ですので、学校の自治というのはすごい大事で、何でそんなレポートを、あるいは報告書とかというのを、上野議員さんそうでしたよね。もううんうんとうなずいておられますよ。

ですので、うちはもう出さない。もうその時間を、それはね、もう地域主権でもそうなんですよ、それは任せることがね。我々だってそうです。学校の先生に任せることが地域主権なんですよ。ですので、そういうもう無駄な時間をそれこそ子どもたちに当てられるように、

我々も県の教育長が非常に理解のある方なので、それも言ってまいりたいと思いますので、とにかく今はもうメタボ、学校の先生かわいそう、子どもに接する時間よりも、そういう例えば、出張であるとか文書を書くとか、会議が長過ぎる。それがストレスになるんですよ、まあ良広さんからストレスと言われてもびんときませんけども、だからそういうふうにして、そういう雑務から僕は学校の先生を解放していきたいというように思っております。

ちょっとこれ2学期の話とちょっと別ですので、ここはちょっと個別に私のほうから答弁させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

教育長さん、ぜひいろいろ言いましたけども、そういうアンケートだけお願いしたいと思っています。

では、続きまして、防災のほうに移りたいと思います。

これ若木と武内の境目ですね、ひいらぎさんという施設があります。これですね、防災のところで言うんですけども、こうやってひいらぎさんの——これ松浦川です。本当はこう行かなきゃいけないのがこんなに曲がっているんですね。松浦川、今改修をお願いしています。これはひいらぎさんの横の川の去年やったかな、増水していたとき撮ったやつです。これ武内側ですね、ここら辺が古川議員さんの自宅のほうになりますかね、これは武内です。この先が武雄北中学校になります。もうこういう状態になります。このとき、この後何が起きたかという、これですね、ごめんなさい、ちょっと戻すと、このところだったんですね、もう完全に道が、ここも全部海になっておりましたね、通れない。その後何が起きたかという、今度ここが増水してここだけ孤立したんですね。こういうふうな分ですと、これさっきのやつです。これもさっきの、もうここら辺人がもう行けないので、ここに立っていらっしゃる。この時点では、後ろの武内側には、若木側にはまだ行けました。

こういうときに質問したいのは、きちっとしたいろんな災害に対する対応、マニュアルが必要じゃないかと。例えば、このときにこういうことがあるので危ないよって電話、例えば、役所にするんですね。そしたら、じゃあすぐ見に行きますって、武内側から回ろうとされるから行けないんですね、結局。結局こういうふうな災害に対しても、きちっとしたいろんな災害、きのう松尾議員さんも災害のことを言われました。きちっと地域が把握していなきゃいけない。でも地域が把握していても対応していただくのは役所ですから、役所のほうもきちんと把握してもらいたい。そういうときに、例えば、紙とかなんとか開いていてもどこがどう、地図がどうというのを見ても時間がかかりますし、対応がおくれます。災害というのは急ぎでやらなきゃいけないところですから。

そしてもう1つは、地域の職員さんが減ってきている。例えば、若木でも昔は何十人とい

た市の職員さんも今もう数えるぐらいしかいらっしやらない。よその町でもそうかもしれない。だから、そういう中で地域のことをわかっている職員さんが徐々に少なくなりました。そういう中できちっとした対応マニュアルがつかれないものかと。

これ若木の川古山中というところですよ。これはもうこの川が増水して車がもうこうやって来ました。この後通れなくなったので、このときも対応して連絡して土のうとかなんとかお願いし——もう足りないのですよね、全然。で、お願いするときも場所からわからない、対応の仕方がわからない、そういう状態がありました。

そういうときにどういうふうにすればいいのかというと、これはあれですね、災害のあそこ何やったっけ、赤穂山トンネルの手前のところですね。まあこういうふうな——あつ、これごめんなさい。（発言する者あり）違う違う、これこの後の質問で出すやつです。あれっ、ちょっと出ないですね。あれっ、PDFを入れていたんですけども、ちょっと出ないですね、すみません。

例えば、紙のマニュアルよりもパソコンで入れておいて、例えば、水害発生、松浦川カチャ、で、そこから映像が出てA地点、B地点、C地点、で、C地点が対応すると、カチャとすると、そこからずっと対応マニュアルが出るというふうな、そういうシステムができないものか。

ちょっと画面に入れていたんですけど、ちょっと出ないので申しわけないんですけども、そういうふうな対応マニュアルをきちっと瞬時にわかるような形でできないものか。

ちょっとすみません、さっき言ったようにちょっとマニュアルができないので、画面が出ないので説明難しいんですけども、何か起きた。で、そこをずっとクリックしていくと対応が一遍に出てくる。連絡先までどうかするときちっと飛ぶかもしれない。そういうふうな迅速な対応のマニュアルのソフトがきちっとできないものかと。やっぱりこういう災害のときは時間との勝負ですから、ぜひそういうふうな対応のマニュアルといえますか、こういうソフト、紙じゃなくてソフト対応ができないものか、それだとわかりやすいですね、場所から教えていかなきゃいけないのですよね。

それともう1つ心配するのが、担当が変わったとき、その災害担当の人が変わったとき、どここの担当が変わったときには、また一からやり直さなきゃいけない。こうやってパソコンの中に入れておくとわかりやすいですし、紙だとどうしても時間がかかる。ぜひそういうふうな瞬時に対応ができるマニュアル、パソコンでのマニュアルづくりをやっていただきたいと思います。それが質問です。

ちょっと本当は画像を当てにしていたので、ちょっと説明がうまくできませんけども、以上、質問をしたいと思いますけども。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

必要だと思うんですね。要は今、もう1つ大事なものは、マニュアルも大事なんですけど、もう1つ大事なものは、その市民の皆さんとの共有なんです。今、NHKの「おはよう日本」にも出ていましたけれども、あのフェイスブックの話が出ていましたけれども、その中で芹田さんですね、セリタ建設芹田さんがどういう行動を起こしたかというのと、このスマートフォンで写真を撮って、それをフェイスブックに投稿してくれたんですね。そうするとこれは、市民もわかるし我々もわかる。ついでに言うと、今だと場所までわかるんですよ、もう入れなくても。ですので、何を申し上げたいかというのと、何と言うんですかね——あっ、これ何これ。

〔21番「これ出たやつ、さっき、やっていただきました」〕

はい。ですので、このシステムというのは、黒岩IT特別委員長のところで、またいろんなお知恵を拝借しようとは思いますが、もう1つ大事なものは、マニュアルというのにはある意味双方向じゃないですか、例えば、牟田さんと私というふうに。で、これよりも、これに加えて共有性ですよ、どこで例えば、水害が起きたかなんとかというのが写真でわかって場所がわかってということが瞬時でわかると、それは見ている人がすぐ起動するということになります。ですので、今それができるんですね、クラウドの時代で。

ですので、そういうソフトとかアプリというのも、さきの山口昌宏議員のときにもお答えしましたけれども、それこそビジネスなんです、そういうソフトをつくること自体が。このソフトというのは、物すごくやっぱり開発費とか開発能力が要りますので、これが武雄アプリとしてできて、それをいろんなお困りのところに安く提供するというのも考えられるんですよ。これをソーシャルビジネスネットワークといいます。ですので、これを単に行政が開発するだけじゃなくて、その武雄の人たちの所得向上のためにもつなげていくために、これはぜひやってまいりたいと思っています。

そして、担当者の件ですけど、これはやっぱり短いんですよ、移動のスペンが短いので、それはちょっと私も考えなきゃいけないなとは思っていますし、そしてぜひうちの職員にも呼びかけ、議会で呼びかけるのも変ですが、もう武雄市に住んでくれと。もうそろそろ終わる方は別にしても、特に消防活動とかなんとかいったときに、やっぱり県外から来るとかというのはあり得ないわけですよ。例えば、白石とかだったらいいですよ、まだ大町とかだったらまだいいんですけども——いや、特定のこと言っていないよ。いいんですけども、これが例えば、まあ固有名詞は言いませんけど、例えば、ここまで来るのに30キロかかりますとかっていうことをすれば、それは牟田さんの言うとおりにですよ、それだったら地区に住んでくださいと。で、こういう人生設計が終わった人はね（発言する者あり）いやいや、それはそうですよ、だってもう退職迎えるんだから。私悪く言っていないよ。

ですので、これから例えば、武雄市に就職しようとする人たちは、もう武雄市に住むとい

うのは条件づけようかなと。いや、要するに、さきの震災のときもそうなんですよ。やっぱりそこが一番困っているわけですね。ですのでマニュアルも大事ですけど、人はもっと大事です。そういう意味で——太陽光村どうですかね。

〔21番「この後で質問しますので」〕

ああ、そうですね。はい、まあそういうことで失礼したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今おっしゃいましたように、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

次行くけどいいですか、これ行きますかね、行かないですね。これPDFはちょっと対応していないみたいですね、ごめんなさい。ああ、すみません、初めて使うもので。

次、これは間違っていないです。先年、愛知県のほうをちょっと視察した際に、市役所の入り口にバイクがいっぱい並んでいるんですね。これ何に使うんですかと言ったら、愛知県災害のときに使いたいと。今度の3.11のときも、一番活躍したのが、自衛隊もそうなんです。一番最初、空からは別として、陸から行ったのはオートバイなんです。そういう中で、いろんなことの中でも装備したいと。それともう1つは、これ50ccです。こういうのが1台あると、市の職員さんが車で行くよりもちょっと、それぞれバイクって使っていないと悪くなりますから、ちょっと行くのに中途半端、自転車で行くのも中途半端なところはもう全部これ使うと。こういうふうなので、職員さんもそれで普通使われて、災害のときはもうこれで行きますと。あの道なき、あそこは災害大きいのが起きますから。

だからこういうので、これは原付ですから安いです。原付と今言うんですかね、安いですから、こういうのを例えば、二、三台置いといて、災害のときにも対応できる。そして車で行く距離でもこれで行く方が、職員さんも行っていかればいいんじゃないか。それは何でかという、例えば、佐賀銀行さんですね。佐賀銀行さんは、武雄支店のほうから若木までバイクで来られます。ずっと若木まで、何でこれで佐賀銀行さん、金はもう貸すほどあると、これで何で来られるんですかと言うと、やっぱり経費削減とこっちのほうが自由に動き回りやすいと。夏と冬と雨のときは大変ですけども、こっちのほうが経費が大幅に削減できると、車で移動するよりも。ですから、若木までこうやって来れるぐらいですから、職員さんもこれでちょっと近場とかなんとか行けますし、災害のときも活躍できる。こういうものの導入はいかがでしょうか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さっきここで議論していましたが、9対1で必要ないと。いや、やっぱり多聞第一なん

ですね。

私はちょっとこれ微妙に揺れていて、大体災害地、被災地に向かうときというのは、森林もそうなんです、やっぱり最低でも2人行くんですよ、2人。1人で行くというのは基本的に公用の場合はないんですね、そういう有事のときは。ですので、これはバイクだと1人じゃないですか。そうするともう1つあって、災害があった場合には物資を届けなきゃいけない。要するに、一たん行くときに、例えば、水を届けるとか、例えば、食料を届けるとかといったときに、これだったらやっぱり背中からうしかないですよ。だけど、車の場合だったら、2人乗せた上で後ろも入れられるということですので、その燃費等々を考えるとこっちのほうがいいし、三、四十万円で買えるというのはすごくあるんですけども、やっぱり私も職員の言うことは聞かんばいかん、9対1で反対だそうです。1は僕です。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

同じことを質問したんですね、そのこの県で。これで反対出なかったですねと。年輩の方反対しましたって、若い人から立ち上げてこれを置くようにしたら、今年輩の方々も乗るようになりましたと。（「年輩ばかりですね」と呼ぶ者あり）はい、というふうな答えが来ました。

やっぱり機敏に、若い人は結構使うんですね。年輩の方は使おうと思っていないから反対されるというふうな、同じこと聞いたんですよ。やっぱりここも、武雄市もやっぱり結果は同じだったですね。（発言する者あり）はい、でも考慮していただきたいと思います。これは何でかという、1台じゃなくてやっぱり2台で行くんですね。それで通信手段の確保とか現状を先に連絡する。そういうふうな役割を果たすわけですよ。ですから、ちょっと再考して、再考というか協議していただければ幸いです。

では次、道路問題に移りたいと思います。

きのう松尾議員さんも道路問題質問されましたけども、引き続いて、松尾議員さんが言われたところはもうそのままやっただけだと思いますので、残りの部分と言ってはおかしいですけども、これは若木町でいつもお願いしているところです。これは工業団地ですね、これは豊田合成です。これはトリシマポンプさん、これは若木側、ここからずっと来たときに、ここ工業団地の出口ですね、工業団地の出口のところに信号機も横断歩道も何もない。この後聞きますけども、工業団地新しく来るかもしれない。で、こういうとこに張りついてどんどん大きい車、そして従業員さんが来るのに、このところ全く何もないんですね。で、地域の人たちもここを渡れないんですよ。これ次のつくっていたかな、ああ、ごめんなさい、これは後。このところ上から行きます。これで見るとそんな大したことないように見える

んですけども、これは若木側から工業団地の中を、若木側というか、行っています。で、ずっと行くところいうふうなさっきのT字路のところに出ます。このところはあるんですね、当然ですけども。で、こう近づいてきました。今停止線ととまりました。見えません、全く。次、ちょっと出ました。この横断歩道まで出ました。ここに車が来ているのが見えますね。ここで、これ画面で見ると遠いみたいですけども、結構近いんですよ。これはもう停止線もずっと出て前まで出てきています。まだこちら辺は見えないです。で、ここにこれがあるんですけども、ちっちゃくてなかなか見えないですね。これはもうかなり前に出てきています。で、ここまで来てやっとここが見えると。これはもう線のところ超えています、フロントは。

こうやって、非常にその工業団地に今度新しく来てくれる企業も、そして、もちろん住民の方も使われています。こういうふうに、工業団地にも住民の人たちにも使うところこう、信号機か横断——もうせめて横断歩道を、危険を予知するために横断歩道をつくっていただきたい。これはもう前から要望しています。ちょっとまずこういうのができないと、なかなか進めないんですね。

ちょっとこのところ前から要望していますけども、再度どのような状況かというのをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

信号機、あるいは横断歩道につきましては、県の公安委員会が決めるという、そういう状況でございます。地元から上がった要望につきましては、武雄署を経由して、武雄署から公安委員会に上申するというふうになっております。

この件につきましては、平成4年、それから平成20年に地元から要望があつておりました、市としても平成4年と平成20年、それから22年に要望書を提出いたしております。

〔21番「いや、わかっつけんがさ」〕

市からの要望を受けて、武雄警察も公安委員会に毎年上申しているということでございますが、公安委員会の予算等が年間約県内で15基分というところということでお伺いいたしておりますので、なかなか実現には至っていないというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

この前質問したのと同じ答弁なんですね。（「はい」と呼ぶ者あり）ぜひですね、ここ何でかという498号が開通します。開通したらもっとここ多くなるんですね。で、新しい工業団地が出てもっと多くなる。——あつ、工業団地ってこの前発表ありました。だから急いでやっていただきたいと。もう先日、きのうからの質問で事故がないとできないのかという

のが出ます。ぜひここが進まない、あともうなかなかお願いしにくいんですよ。

これはさっき言いましたところ、これ要望です、紹介ですけど持賀峠と言うんですね。これゴルフ場から見たところ、で、ここ下中学生の帰りよるところです。これ下に中学生が、中学生、地元の人が通うところ、これ反対側から見たところ。ここも、これは事故だけでなくて事件の可能性も大きいのでお願いしたいと思います。ですから、先に――先にといいますか、こっちはできないのにこっちはなかなか進めないと。ぜひ角部長さん、強力で押し進めていただくようお願いします。これ前の答弁と同じですよ。はい、ぜひお願いしたいと思います。

これはもう工業団地で事故が起きたらあそこ危なかばいてなってしまうわけですね。事故が起きてすぐでくっ、何で、事故起こすぎでくっ、やと言わるっかもしれないけんが、ぜひお願いしたいと思います。

次の質問に移ります。

これきのう山口裕子議員さんが質問されたときに使われました。これはもう今までにない革新的なあれですよ。商工観光のほうなんですけど、武雄もだんだん有名になってきて、議会も物すごい視察ですよ、経済効果すごいと思います。もう議会の黒板なんて埋め尽くされていますから。

そういう武雄の中でさらなるイメージアップを狙っていただきたい。やっぱり市報も今外からの評価これ高いです。ぜひさらなるイメージアップのために、これ例えば、もう1つこれ、川内のジラカンス桜、これ市の職員さんが撮られていたんですね。

〔市長「森、森」〕

はい。こういうので思うのは、今まで例えば、印刷物を頼むときに、デザインと印刷を一緒に頼んでいたんですね。普通都会のほうは、デザインを決めてから印刷をお願いするんですね。ぜひ武雄もデザインを先に選定して印刷に回すというふうな形ですと資質が高まるんじゃないですかね。私もこれ来たときもうすごい、これ若木行きたかと思うですもん、自分で同じ若木町内でも行きたいと思います。

やっぱりこういうふう、ぜひデザインを決めて、それから今一緒くたに出しているのをデザインを決めて印刷、そうすると武雄市内のそういうデザイン屋さん、印刷屋さんのボトムアップにもつながると思いますけども、その辺のところはいかがでしょうか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今もいろんな対応があるんですよ。デザインをこういうふうにしてくださいということで発注をしたりとか、デザインそのものを出してくださいということでやっているとか、ある

いは県外で物すごく安くやったださる方々もいますので、それはこれだという決め打ちしないほうがいいと思うんですよね。いろんなやり方があって、それぞれにやっぱりいい悪いというのはあります。

今ちょっと考えているのは、特にこれうちの職員の森一也の作品なんですね。やっぱりむちゃくちゃいいんですよ。ですので、これからはもう1つ第4の道として、どんどん職員がやっていくということ。そして、何というんですかね、例えば、あの中野さんのところですよ、中野さんのところに協働でやるということですよ。

この前の中川恵一先生のポスターって物すごい評判いいんですよ。あれはどういうふうにやったかという、市役所のほうから構図はこういうふうにしてほしいと言うことを言って、若木出身の中野さんのところを出してきたんですね。そうすると、やっぱりおーってなるわけですね。

だから、そういう観点からすると、こういう第4の道ですね。あれ職員だけじゃ無理なんですよ、あそこまでの配置とかは無理なので、これも、ちょっと間違いがあったら申しわけないんですけども、写真は森一也が撮って、このコピーとか川内ジラカンス桜、「いつからかあるのか なぜそこにあるのか 名前の意味すらわからない ただ、ひっそりと この町に息をひそめる」って、これだれが書いたかと言ったら、これ中野さんなんですよ、これ。——あつ、牟田さんだそうです。

〔21番「違う違う」〕

なので、まあ中野さんだと僕は聞いていますので、そういう意味で市民と協働してやるような、第4のスキームというの、あつ、これはもう十分あり得るなというふうに思っています。

今まで役所という、普通考えたときに安くやれとかと言うのばかりなんですよ。でも、デザインというのは安くはできません。これは知的財産です。ですので、それはきちんと報いると。そして、これももし可能だったらうち職員に言っているんですけど、だれが撮ったかとか、あるいはだれがコピーライトしているかというのをいせと申しているんですよ。そうすることによって、これだけすばらしいのは、じゃあこの人に頼もうというふうになるんですよ。これ今市の市報というのは、武雄市民だけ読んでいるわけじゃないんですよ。フェイスブックに出しておりますので、厳密的に言うと世界中の人が読んでいるわけですね。そうすると、県境とか国境を飛び越してこの人をお願いしようというのが今のグローバル社会なんですよ。

ですので、私はそういう意味でも応援をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱりもう表紙、写真1つで武雄市のイメージアップ物すごくなりますので、ぜひお願いしたいと思います。

では、商工の次、引き続きまして、これは若木の工業団地ですね。若木の工業団地、これは平和電機さん、これはカイロンさん——カイロンさんもう今度あれですけども、ここがサンエイムさん、大楠公園がこの辺ありますね、これは大楠公園ですね。

今度、この工業団地残りの区画と、そしてこのカイロンさん——これはズームとかちょっとできないんですって。——が話題になっております。この若木の工業団地が空いていたんですね。で、今度宮裾があると。若木の工業団地が埋まってしまえば次は宮裾だと。（発言する者あり）はい、ぜひそこら辺の再度、この若木の工業団地、企業誘致の実態といいますか、今1つ決まったということで残りの分、その分の状況を再度お教えください。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

若木の武雄工業団地の分譲の状況でございます。

先ほどございましたように、民有地と今佐賀県の開発公社が持っている1ヘクタールの区画と2区画が今空きの状況でございましたが、さきの6月7日の企業進出協定、これは東京杉並区の三京ステンレス鋼管株式会社というのが参りまして、来年の1月から創業をする予定でございます。

あと残りの開発公社が持っております1ヘクタール、これはセブンイレブンのすぐ左側にありますけども、これについては現在引き合いもあっております。ですから、これについてはできるだけ早い時期に分譲ができるように努力をしていきたいというふうに思います。

また、昨年の23年の6月の議会で、北方の工業団地の造成に伴います優遇措置等を設けましたけれども、そのつくりました優遇措置はこの武雄の若木の工業団地にも適用できますので、その分も含めて今誘致をやっておりますので、粘り強くやっていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱり工業団地が埋まるというのはうれしいですね、地元としても。やっぱりあそこは空きっ放しじゃどうなっているんだろうという声が上がりますので。やっぱり何でもそうですけども、武雄の知名度が上がるということはそれだけ有利になるんですね。

〔市長「うん、そうそう」〕

工業団地探している。ずっとつらつら、いろんな工業団地一覧がずうっとあります。もういっちょいっちょ読んでいくぎびっくりすっごたっばってん、例えば、知っているところは

ぱつととまって見るんですね。やっぱり知名度が上がるとそういうところは目がとまる。目がとまるということは、そうやって企業誘致のほうが有利になるというふうに私は思っております。

企業誘致のこの点に関しては、また9月議会で聞こうと思っているんですけども、こうやってぜひこれからも頑張ってくださいと思いますし、地元雇用をぜひお願いしたいと思います。

では次——あつ、すみません、これまだ次じゃございませんでした。失礼しました。

委託のところなんですけども、これは提言をしますということで伝えておったんですけども、ぜひ委託契約の分で市内業者を最優先してやっていただきたいと。例えば、市外業者が1万円の物品があると。でも市内業者で買うと1万1,000円、高いから1万円のほうにしましたというふうになると思うんですけども、租税効果の原則として、地元で購入すればそれが回り回って来るんですね、市に。ぜひですね、例えば、5割も6割も地元が高いと言うならそれは仕方ないですけども、例えば、1割ぐらいとかだったら租税効果の原則から、ぜひ地元からの購入、そして地元への委託をお願いしたいということを提言したいと思います。

では、次に移らせていただきます。

次は、周辺部問題に関してであります。周辺部、前から質問とかいっぱい出ていますように、さっきちかつと出ていました。これは小学校のことを出しています。小学校の生徒数です。武雄小学校358名、御船が丘小学校653名、多いですね、やっぱり、さすが御船。朝日小学校417名、やっぱり朝日も多いです。次、山内東小学校232人、山内西小学校244人、北方小学校425人ですね。次行きます。西川登小学校107人、東川登小学校110人、武内小学校133人、橘小学校103人、これは何かというと、周辺部の活力が低下しているということを言いたいんですね。で、次、若木小学校97名、やっぱり徐々に少なく、この子たちが大きくなって将来地域を支えてもらわなきゃいけない子どもたちがだんだん少なくなっている。そういう中で何とか手を打たなきゃいけない。これは市長がさっきおっしゃいました太陽光村構想というのを物すごく期待するんですね。

その中で、まず1つ目、これは先日区役がありました。これは先ほど山口昌宏議員さんのほうでもありましたけど区役、これはずっと溝掃除と草払いです。これ休憩しているところですね、休憩入れないと。で、こういうふうにして午前中草刈ったところを全部上げていると。大体1.5キロ、20名ぐらいです。で、やっぱり田舎はどんどん人数減っていますので、どんどん少なくなれば1人当たりの負担がどんどんどんどんふえていくんですね。

そういう中で、今はいいけど将来的に、これはうちの地区だったんですけども——これ次も入れているのかな、——うちの地区だったんですけども、やっぱりいろんな地区もだんだん人が少なくなって厳しくなっている。そういう中で、将来的にその地、よくほら国土の保全ってありますけども、全体的な地域の保全のために物すごく皆さん頑張っていらっしゃる

んですけども、今は大丈夫、でも5年後、10年後どうなるんだろうという話をしているんですね。本当に維持ができるのかと。もしよければ、今からこういう調査をしていただいて、今後、例えば、その地区の人口動態でこの維持の保全ができるかどうかという調査を先にお願ひできないものかというのを質問したいと思います。実態を把握していないといろいろできないので。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

周辺部の状況という代表的な単語としまして、よく言われますのが限界集落という言葉が使われております。平成24年度が限界集落というのが1地区ございます。

〔21番「簡潔にお願いします。すみません」〕

準限界集落が平成22年度32地区、平成24年には42地区になっていくということで、全体的に、武雄市市内全体的にそういう課題があるというふうに認識しております。こういう周辺も含めて、人口減になっていくという箇所についての対応については今後研究してまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

皆さん、高野誠鮮さんって御存じですかね、高野誠鮮さんって。ちょっと字の読み間違いかもしれないけども、「誠」に鮮魚の「鮮」と書いて、石川県のお坊さんなんですね。で、東京でテレビプロデューサーとかされていて、戻られて、最初にその石川県に手がけた仕事が、臨時職員として戻ってこられて、公務員として戻ってこられて手掛けたのがUFOの記念館ばつくんさったとですよ。そいぎ物すごく人の集まって、で、この次に仕掛けたとは神子米ですかね、神の子どもの米というのがあって、これは名前がいいと、ゴットチルドレンということで、ローマ法王に手紙ば出して、ローマ法王が食べてくんさったわけですね。そいぎローマ法王が食べたお米ということで今売り出して、ばらい売れよるわけですよ。で、次に仕掛けたとは、なかなか日本酒が売れないということで、どがんやってしたかというぎ、日本人って海外に弱かですもんね、ミシュランとか弱かけんですよ、それば外人の口に合うごとしてどがんしたかというと、ワイン酵母を使って日本酒を出したんですね、これは牟田議員御存じだと思いますけど。（発言する者あり）うん、そうするとそれが、ヨーロッパのミシュランとか、あるいはJALやったかな、ファーストクラスに出たりとかして、これまた評判を呼んで、で、挙げ句の果ては、これ限界集落なんです、そこは。そいぎですよ、そこ今人の移り住んできよるわけですよ。どがん仕掛けばしたかというぎ、面接ばしよんさるわけですよ、面接を。（発言する者あり）酒が飲み切らん人だめだそうです。僕はだめです。

それで、そういう人で、ほら、普通はうちもそうですけど、いや、100万円プレゼントしますとかとするじゃないですか、それは間違いと言わすとですね。そうじゃなくて面接をしますと、もう来ん人は来んでよかという、そしたら逆に、うちの視察制限令と一緒にですよ、本当。それが話題を呼んで物すごく今移り住んできて、限界集落率はストップしておるわけですね、今度この人を呼びます。11月の17日かな、呼んで、この前フェイスブックでお友達になったですもんね、たまたま。高野さんてだれやろうかとかと思って見たら、この人やったわけですよ。で、向こうから来て、電話ばしたらうちにぜひ来てくださいということ言うたら来ますということで、11月の17日に記念講演をして、で、そのときは、きょう若木の区長さんたちもお見えになっていますけれども、あるものを生かせばこういうふうになっていくわけですよ。しかもこれは行政主導ではない。しかも新たに債務負担か何かをして、どばっとつくるわけでもないというので、きっかけですもんね、そういう位置づけのものをしたいと思っていますので、皆さんたちはこれごらんになられている方はただで御招待をしたいと思います。見ていない方もただで御招待したいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほど部長からの答弁もありました。限界集落がふえておる。本当にそうです。地域の保全というのが地域の課題になってくると思います。そういう中でぜひこれからも、一回調査して、それから対応策を練っていただきたいと思います。本当に周辺部は、地域の保全に物すごく役立って——役立つというか、力を注いでいますのでお願いしたいと思います。

では次、みんなのバス、2つ一週に質問したいと思います。

みんなのバスは、この若木町いろんなところを回っています。ぜひこういうのを再度、やっぱり町まで行かないとなかなかぐるぐる回ると大変ですので、この辺のところの今後の活用を1つ目の質問。

次、この太陽光村、太陽光村は物すごく期待しております。ここで答弁一回ありましたけども、ぜひこの件の所見を述べていただきたい。

これは前言いました塩田町の団地ができました。塩田町の団地、全部埋まっています。このうちの29世帯が武雄から移り住んだ世帯です。一番最初はこんなところに本当——こんなところと言っちゃ失礼ですね、ここに人が来るんだろうかというところに相反して、武雄からもこうやって29世帯、この中の29世帯武雄からです。行っております。

だから、こういうふうに太陽光村も物すごくやっぱり期待されるわけですね。これは、ちよっとこれGoogle（グーグル）で今ずっとやっているんですけども、Google（グーグル）でこれ雲がかかっています、これどこかというと繁昌なんですね、山口良広

さんのところですか、はい。（発言する者あり）そうです、山口良広さんの。はい、よくわからなかったね、本当に。ここのところ、昔ですね、物すごく人家が、この辺あんまり張りついていなかったんですけど、今物すごい張りついているんですね。それを写そうと思ったら、雲がかかって写せなかった。ちょっとすみません、失礼しました。

以上2点、これは物すごく期待しているところですので、太陽光村、そしてこのみんなのバス、2点、できればちょっと時間がないので簡潔にお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まずみんなのバスは、地域の皆さんのニーズに応じて柔軟に行ってまいりたいと思います。太陽光村はぜひやりたいと思っています。

その一方で、これ地権者の方々にぜひお願いがあるのは、もう御理解あると思うんですけども、やっぱり我々が買収するに当たって高くなると、これは事業費にはね返るわけですね。安くするのはできます。できますが、じゃあその差額はだれが負担するかというと、これごらんになっている市民の皆さんたちなんですよ。ですので、そういう意味での理解を十分してほしいなというふうに思っております。これについては必ずやりたいと思っていますので、その前裁きを含めて、若木町の振興教育——きょう松尾陽輔議員さんもおられますし区長さんもお見えになっていますので、ぜひその前裁きをしっかり行っていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。ぜひこういうのを前向きにやっていただきたい。さっき言いました、この来ると思わなかったところやっぱり来るんですね。あっ、これまた、黒尾残念ですね、これを一番宣伝したかったんですよ。はい、失礼しました。

あと最後、例えば、さっき言いました若木町は、今度498号というバイパスが通って、みんな素通りになるんじゃないかというふうな心配があります。

次、これ若木町の中の、これは観光の部分もあるんですけども風穴、風穴ですね。風穴のところ整備していただきました。これは若木町の大古場和則さんという、本当に何というんですか、ちょっと今ここのところから、昔一緒に行ったことある人はわかると思うんです。ここもう竹やぶで道なき道だったんですね。そしてこう歩いて行って、こういうのもずっとあります。前はありませんでした。で、途中ここを通っていきます。こういうのもつくっていただいています。これ、ここも段がきちっとして、ここの間を、これひもですね、もしものためにつくっております。地元の方々は本当に少ない予算でつくっていただいております。

で、これもこうやって上っていける。本当にオルレにも使っていいんじゃないかというぐらいのコースだと思っております。で、これ風穴、もうこの前私行ったら、見てのとおりスマートですから汗だけで、もうここに入った途端スーッとですよ。反対にもうこの前に——ここ白くなっているのは湯気じゃありません、冷氣です。で、もう本当にスーッとす。こういうのをぜひ生かすような道筋を考えていただきたい。で、これ横から見たところですね。

最後に大楠公園、大楠公園は、今までは道が向こうだったので見えなかったんですけど、今度はバイパスがこちら側になります。八幡岳をバックに最高のシチュエーションになります。ぜひこういうふうなことを生かすまちづくりで頑張っていきたいと思っておりますけども、市の所見をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これはやっぱり、地元の人がこういうふうにおっしゃっていただかないと、我々はなかなか動けませんので、そういう意味で議会であるとか、きょう区長さんお見えになっておりますけど、どんどんやっぱり意見を出してほしいと思っておりますね。で、精いっぱい応援していきたいと思っております。

それでさっきちょっとごめんなさい、答弁し忘れたんですけども、もう山田恭輔さんが言ええと言っていますので、さっきのみんなのバスなんですけど、循環バスに割と今乗っておられるんですよね、我々がいろんなことをやって、何というんですか、あと時間を変えて。ですので、みんなのバスと循環バスの無料の乗り継ぎキャンペーンを実施したいと思っています。ですので、みんなのバスで全部行くわけじゃなくて、そういうあるものを生かして、無料でいかしていきたいと思っておりますので、ぜひ区長さん方もその宣伝に一役買っていただきたいなど、このように思っております。

〔21番「以上で終わります」〕